国史跡武蔵国府跡(国司館地区) 保存活用整備工事(第1期)

## 計画概要

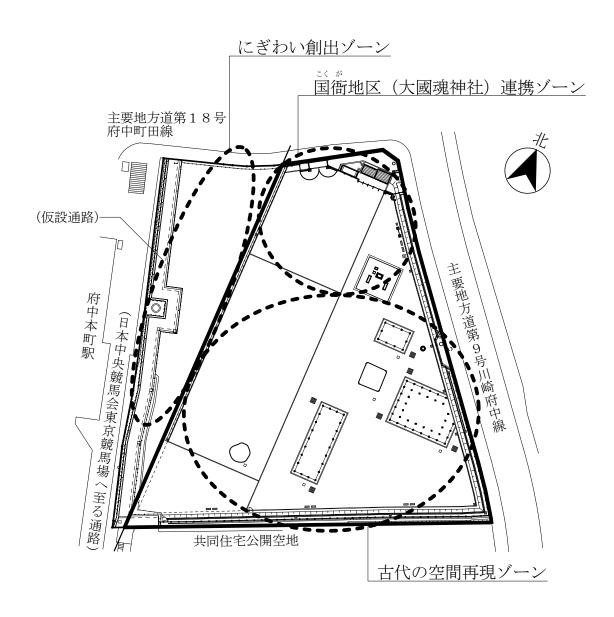
1 工事場所 府中市本町1丁目14番地の1

2 用 途 地 域 近隣商業地域・第三種高度地区・防火地域

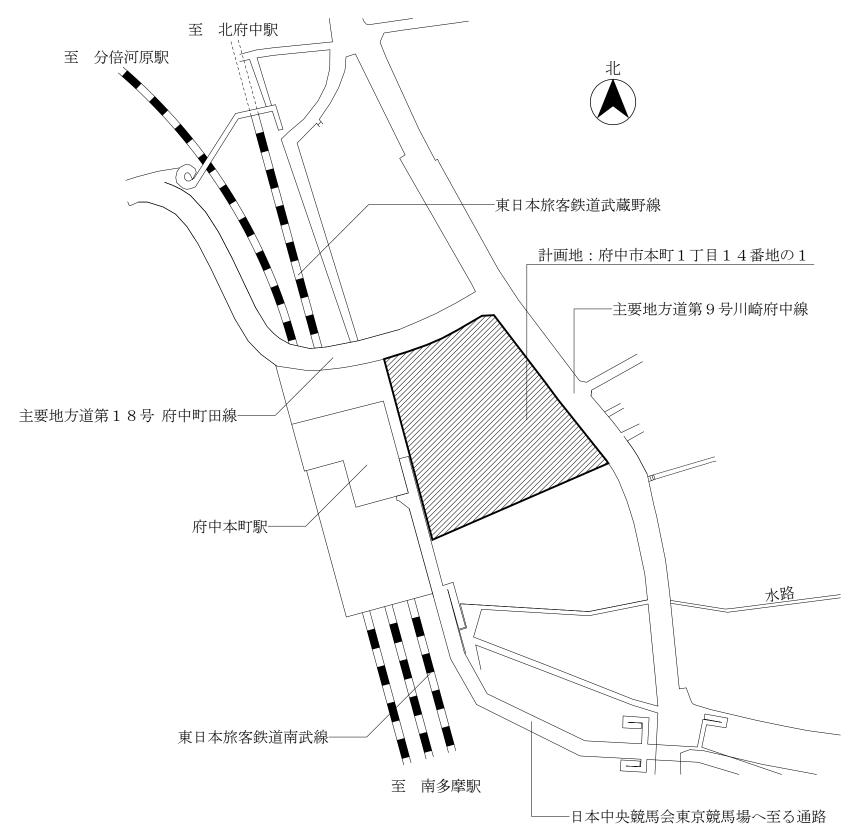
• 地区等

3 敷地面積 7,812.76㎡

(第1期施工部分 6, 158.09㎡) 第2期施工部分 1,654.67㎡



ゾーニング図 1:1,000



案内図 1:2,000

再生木材 1.3m×1.3m

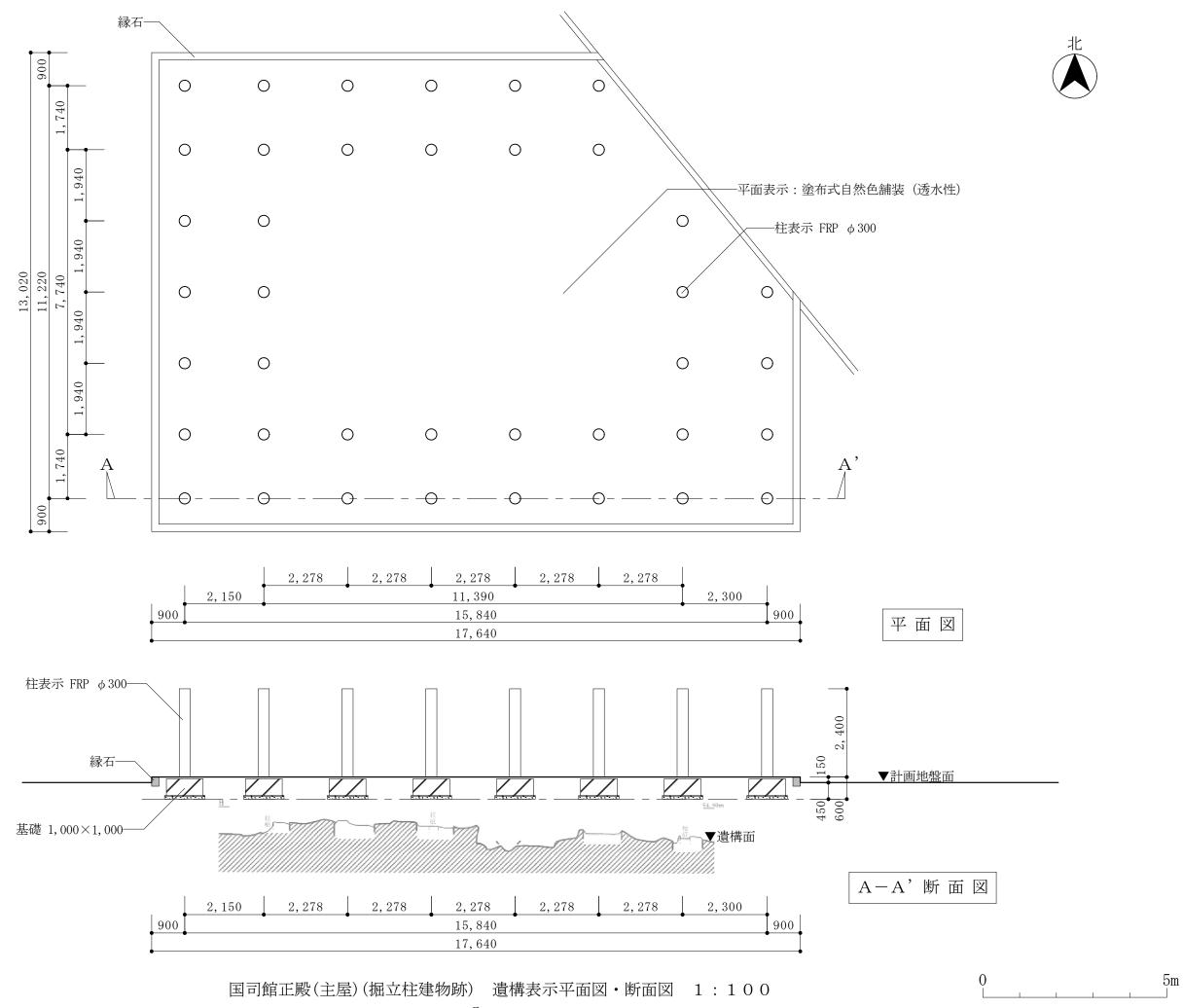
30cm×60cm(千鳥配置)

開戸 W=5.0m H=1.5m

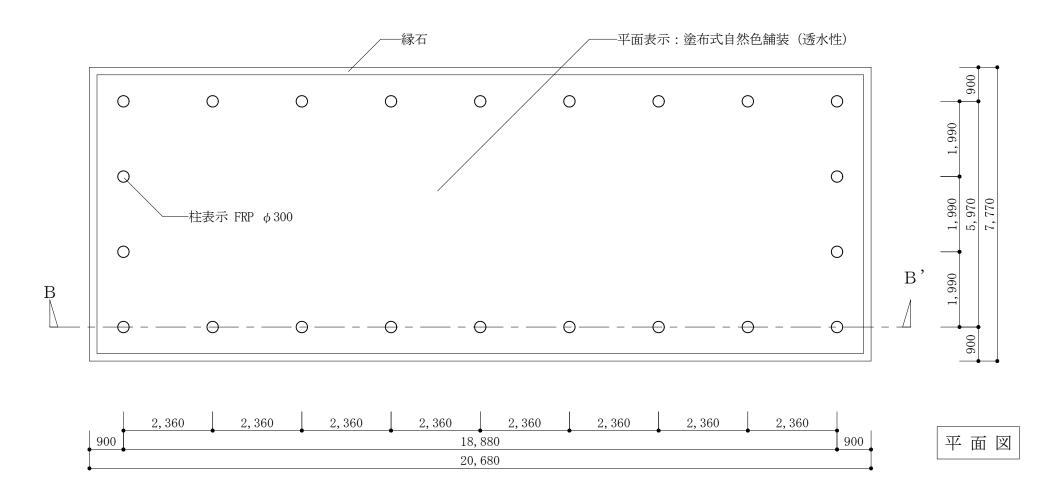
W=7.5m H=1.5m

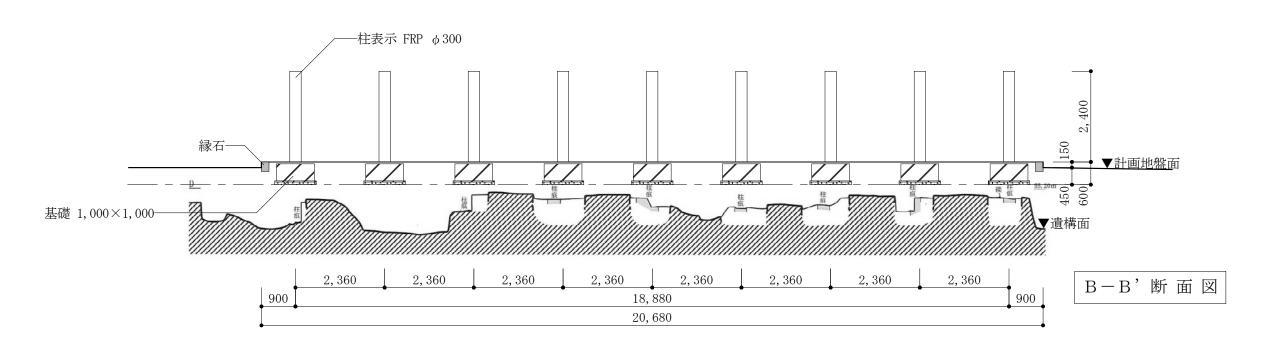


歩道幅員3.35m-

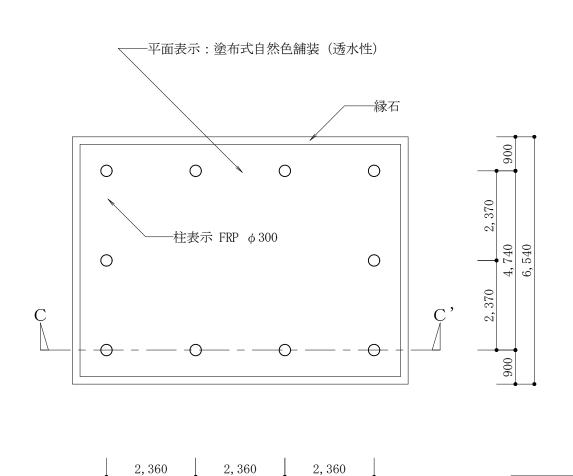


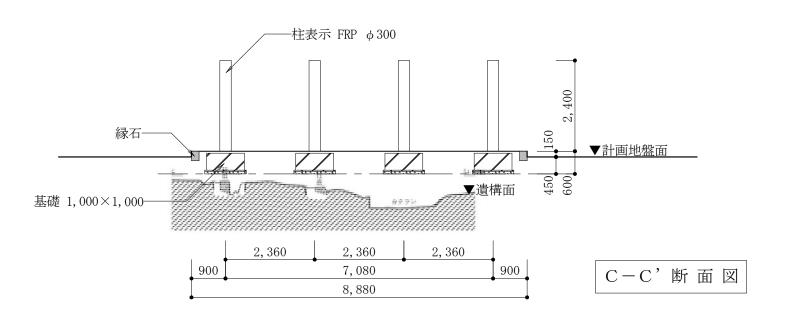






0 5m





7,080

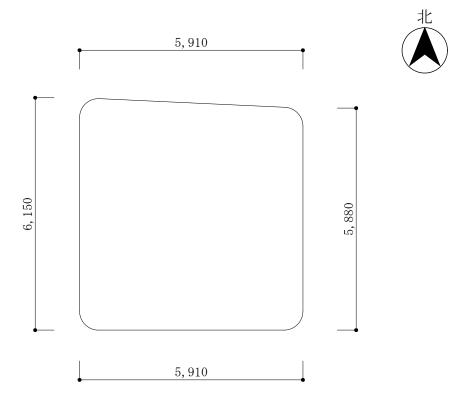
8,880

900

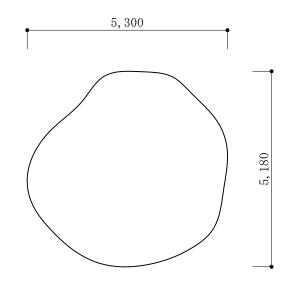
平面図

900

国司館付属建物(掘立柱建物跡) 遺構表示平面図・断面図 1:100



国司館関連建物(竪穴建物跡)遺構表示平面図 1:100



国司館関連施設(大型土坑)遺構表示平面図 1:100

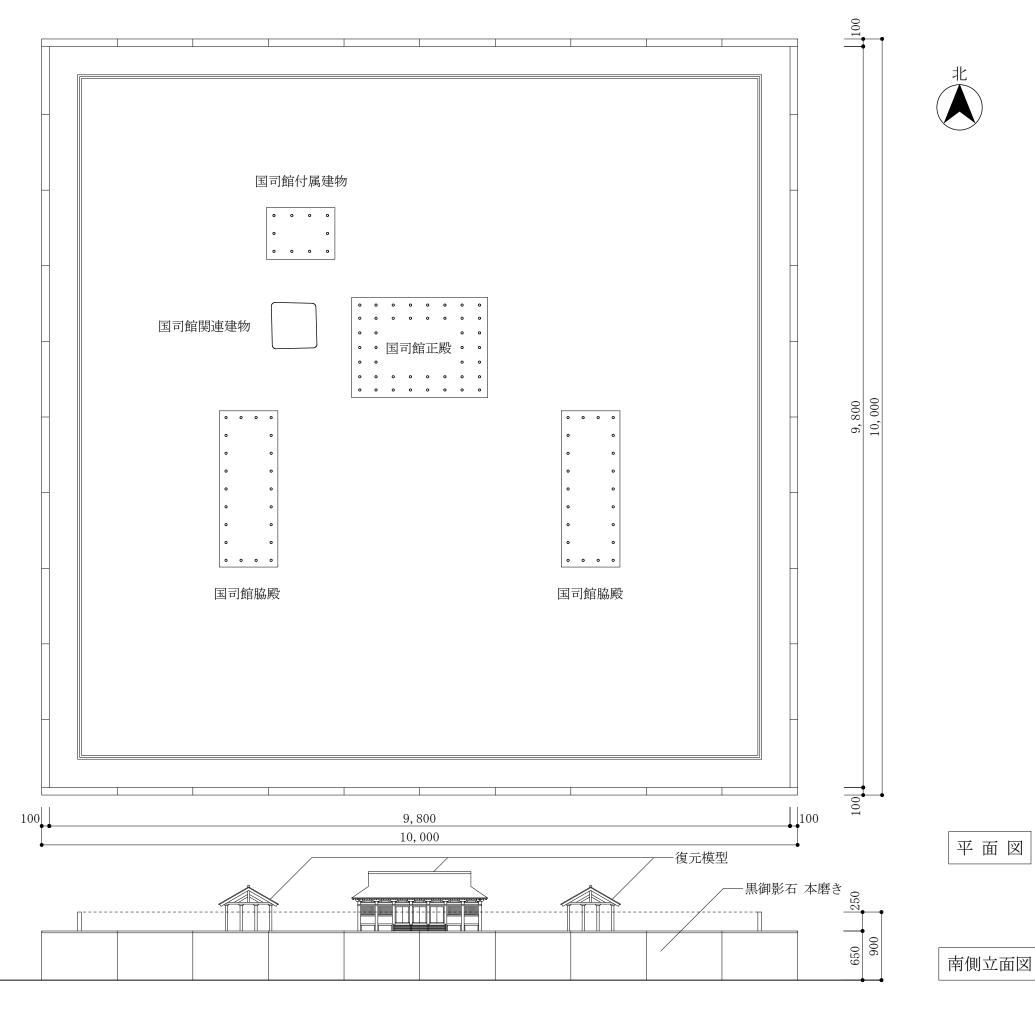




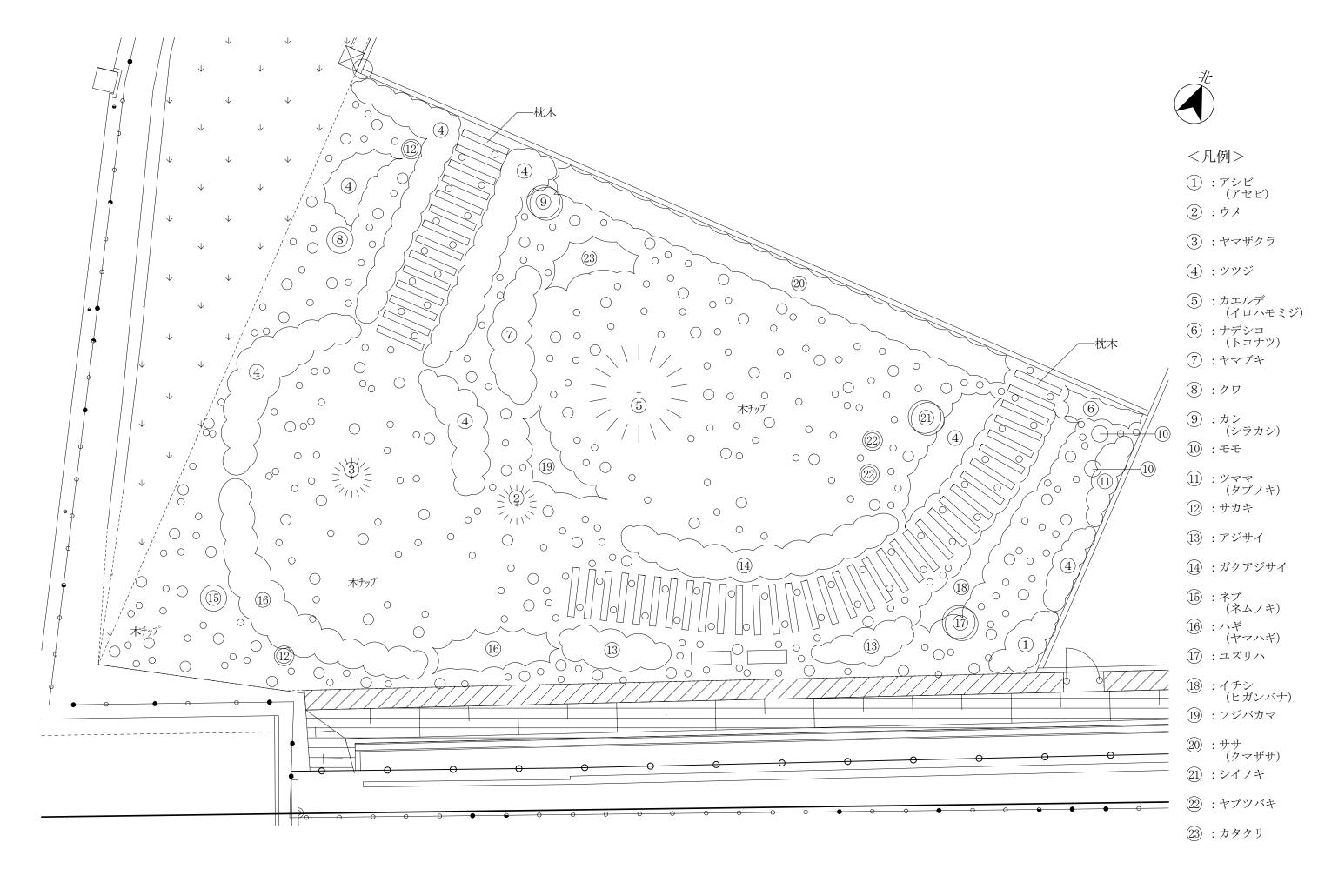


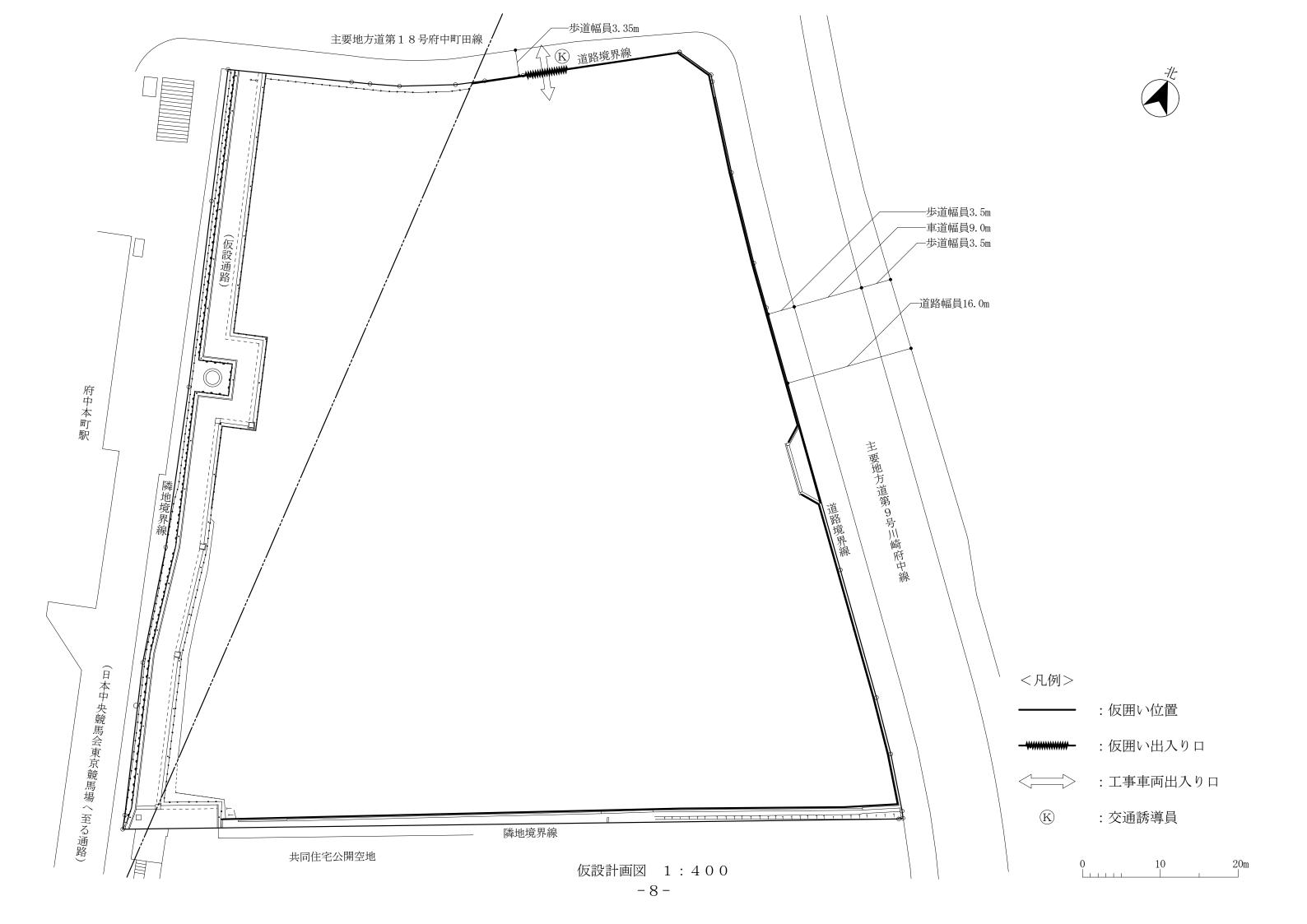


【復元模型の設置例 (三重県明和町 国史跡斎宮跡)】



復元模型平面図・南側立面図 1:50





## 「AR・VR武蔵国府(仮称)」制作イメージ(案)

## 1 趣旨

国史跡武蔵国府跡(国司館地区)において、来訪者が史跡の歴史的価値を適切に理解し、歴史に親しみを持ってもらうため、スマートフォン・タブレット端末用のアプリケーションソフトを制作し、AR(拡張現実)画像・VR(仮想現実)画像等を用いて、史跡の解説や、情報発信を行うものです。

## 2 内容

- (1) GPSにより位置情報を認識し、史跡内の特定の地点に到着すると、テキスト、画像、 音声等により、各種解説・情報を表示します。
- (2) 史跡内のマップを表示します。
- (3) AR画像により、次の国司館関連遺構を復元します。
  - ア 国司館正殿(主屋)
- イ 国司館脇殿(副屋)
- ウ 国司館付属建物
- 工 国司館関連建物(竪穴建物跡)
- (4) AR画像による遺構の復元と合わせて、古代の人物、動物等の画像を出現させます。
- (5) 上記の復元に加えて、VR画像(フルCG)で当時の地形、景観等も復元することにより、古代武蔵国府跡(国司館地区)の空間を復元します。
- (6) AR画像・VR画像を含めた写真を撮影できるようにします。
- (7) 事故防止の観点から、史跡指定地以外ではAR・VR機能が作動しないよう配慮します。
- (8) 日本語のほか、英語等の多言語に対応できるようにします。



【AR・VR体験用デバイスの例(宮城県松島町「松島ダテナビ」)】 厚紙製の簡易ゴーグルにスマートフォンを挟み込んで、画像を立体視できる。









【VR画像の活用例(ふるさと府中歴史館「国府百景」での国司館復元画像)】



【スマートフォン・タブレット端末用アプリケーションソフトの使用イメージ】 史跡内の特定の場所でアプリケーションソフトを起動し、専用ゴーグルで端末の画面を 見ることにより、当時の建物や歴史上の人物が浮かび上がって見えるようになる。